現代文化創出の「場」形成プロジェクト

菅野康太（法文学部人文学科心理学コース）
酒井佑輔（法文学部法経社会学科地域社会コース）
太田純貴（法文学部人文学科多元地域文化コース）
農中至　（法文学部法経社会学科地域社会コース）
清水香　（教育学部美術科）

プロジェクトの目的

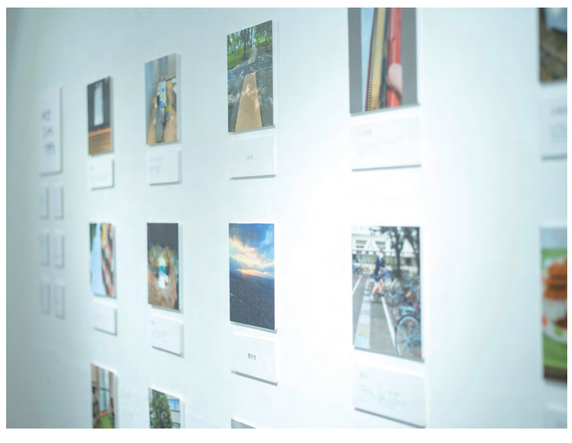
鹿児島には豊富な歴史・文化資源が存在し、近代史や近代文学、民俗学的資料を展示する施設などに恵まれている。他方、現代アートをはじめ、作者がこの時代に生き、現在進行形で醸造される文化創出の場に触れる機会は極めて少ない。過去から継承された文化・芸術と現代との連続性のみならず、未来への連続性を自ら創出する場と人を形成することで、この地域と法文学部から、永続的に文化が創出されるフレームワークを構成することを目指す。言い換えれば、鹿児島と本拠点が得意とする歴史的文化の知見を資源として、未来に引き継がれるコンテンツとなる現代文化を創出する場の形成を目的としている。

1. 表現としての展示

鹿児島市加治屋町の gallery HINGE と協力し、授業「アクティブ・ゼミ」において学生が展示企画を行った。これを通し、論文やレポート以外の方法での表現・文化発信を体験した。詳細は、展示フライヤー裏面の QR コードから。

フライヤー（表）

フライヤー（裏）



gallery HINGE での展示の様子

2. 学内における「場」の創出

法文学部に新設されたラーニングコモンズを、学生のクリエイティブな活動を促進する場とするために整備した。文化的背景を持った家具を設置し、過去から現代そして未来への文化的つながりを想起させるようなイラストを施した。

法文学部棟 2 号館 1F のラーニングコモンズ 1

今回のイラストは、篠崎理一郎氏（本学卒業生で全国的に活躍する鹿児島在住のイラストレータ）に依頼した（左）。カリモクの家具を配置し、日頃のディスカッションに加え、トークイベントなどの企画も実施しやすい部屋となった（右）。

ラーニングコモンズに人が集い、勉強やディスカッションをする。